

崇徳興仁



SOTOKU

同窓会だより

NO.

17

2005年（平成17年）11月11日 崇徳学園同窓会本部発行
崇徳学園同窓会ホームページ <http://www.soutoku-ob.net>



▲ 整備されゆく校舎。昭和32年には鉄筋新校舎（1号館・写真の右端）が竣工。（昭和34年/崇徳学園120年の歩みより）

本校の創立は明治8年（1875年）に浄土真宗篤信家の護法興業悲願から誕生し、崇徳学園は今年で一三〇年の輝かしい歴史と伝統を誇る名門校に成長した。同窓生の数も平成17年3月現在延べ三万一千八百二十三人にのぼり、国内外の幅広い分野で活躍を続けている。半面教育界に目をやれば年々押し寄せ、少子化の波みに伴い、将来の私学経営の根幹が問われている。こうした中で、わが学園は12年4月から中高一貫コースを取り入れ、公立高校では難しい「基礎・発展・飛躍」の三段階からなる独自の教育プログラムを推進中だ。開学以来、親鸞聖人の教えである「崇徳興仁」の教育理念に沿い、引き続き教育とスポーツ両分野での飛躍的な伸展を切に願いたい……。

CONTENTS

奥田会長あいさつ	………	(P.2)
高橋理事長あいさつ	………	(P.2)
鳴川校長あいさつ	………	(P.3)
今年度の合格状況	………	(P.4)
全国大会出場のクラブ紹介	………	(P.5)
がんばれ！崇徳健児	………	(P.6)
同窓会この一年	………	(P.6)
Pick Up同窓生	………	(P.7)
永井建子の記念碑建立	………	(P.8)

「新しい崇徳の時代」を予感



崇徳学園同窓会会長

奥田 耕造氏
(昭和40年卒)

今年も同窓会総会・懇親会の準備をする中で、沢山の同窓生のみなさまとの新たな出会いや、友人や恩師と久方ぶりの再会をすることができました。これは崇徳学園で、み仏様のみ教えをいただき卒業した一人としては何かの因果を感じずにはいられません。

さて、崇徳学園は中・高一貫教育を学園の基本方針とし取り組み、新入生の募集活動や卒業生の進路状況などを追うごとにうれしい成果が出てきております。これも鳴川校長をはじめ、教職員が一致結束し理想の学園作りを目指し努力を重ねておられていることが大きな要因であります。引き続き関係各位のご努力をお願いしたいと思います。

また、三年続けて全国制覇の選手を送り出した柔道部を始め、バレー部、ボクシング部、体操部、弓道部、アメリカンフットボール部が、中学校では柔道部が全国大会に出場し活躍しました。また今春の大学入試に於ても高いレベルの難関大学を合格突破し、多くの生徒の夢をかなえることとなりました。これらは地道な指導を続けている進路活動の積み重ねの結果と、関係各位に心より感謝申し上げます。創立百三十周年の節目に当たって本年が勉学・スポーツの両立を掲げ、文武両道「新しい崇徳の時代」を予感しております。同窓会もこれからの時代変革の中で、参加しやすい活動を基本に、特に若い同窓生の方々が、同窓会に興味を持ち活発な交流により同窓の輪を広げることのできる活動。また学園へは将来を考慮して継続できるサポート役を担っていく。など次世代への橋渡しを考えなければならぬ時代の潮流を感じております。今後は少し時間をかけてでも「今後の同窓会の在り方」について役員、幹事の皆様の知恵とご意見を賜り取り組みたいと思っております。

最後に本日の同窓会総会、懇親会開催にあたりご協力賜りました学校関係者、同窓生の皆様、チケット販売で奔走いただいた各クラブOB会組織の皆様、本年度の当番幹事である平成五年卒業の皆様は心より御礼申し上げます。

母校が躍進を始めました



崇徳学園理事長

高橋 乗宣氏
(昭和33年卒)

秋もずいぶんと深まってきました。同窓の皆様には引き続きご健勝のこととお慶び申し上げます。日本の経済も長かったデフレからようやく出口が見えるところまで来たようであり、株式市場ではバブル期に迫る大躍進が実現しております。同様に母校も、長かった低迷の時期を脱し、再び躍進を始めました。これも、教職員の方々の弛まぬご努力に加え、奥田副理事長をはじめとする地元理事の皆さんの献身的なご協力、さらには同窓各位の熱いご声援のたまものであると、心から感謝する次第です。

今年三月に卒業した諸君の進路を見ますと、この十数年来には無かったような成果が現れています。東大一名、京大二名、北大三名など、国立大に三十名が合格しました。また、横浜市大、大阪市大など公立大には十一名が進学しました。私大では、早慶合わせて十二名、日大・中央・明治・法政を合わせた三十六名、関・同・立の合計は五十名、龍谷三十四名といった具合です。特に現役生の健闘が目立ちました。

また入試の結果も順調で、高校四百五十名、中学二百二十名が新しく崇徳学園に入学してきました。「足切り」のラインを上げてきているので、水準の高い子弟が次第に多くなっています。教室が足りないという嬉しい誤算に対応するために、急ぎよ、校舎の増築工事をしたような状態です。今年中高一貫教育（六年制）が完成する年でもあり、一段と期待を強くしています。スポーツの面では、バレーと柔道が安定した強さを誇っていますし、体操・弓道もよく健闘しています。ラグビー部はOBの方々が一丸となって強化に乗り出してくださっています。

昨年九月から、学園の中期ビジョン策定作業を開始しました。学園初の試みとして、理事会と現場教員、それに事務方が一体となり、岡山和彦理事（昭和三十四年卒）に主査をお願いして鋭意検討していただいております。本年七月に第一次の答申をいただきました。今は次の諮問に取り組んでいただいております。

ご承知のように、激しい少子化の流れの中で、私学の経営をめぐる環境は次第に厳しくなっております。学園は、今年、創立百三十周年を迎えましたが、これからはさらに百年の伝統を積み重ねていかねばならないと考えております。そのために、思い切った改革を急がねばならないと考えているところですが、老朽化のため地震に耐えられそうにない校舎もあり、数年のうちにはこれを建て替えねばなりません。課題はまだまだ山積しております。教職員、理事会ともに懸命に努力する所存ですので、同窓の皆様方にも引き続き熱いご支援をお願いいたします。

中ガンバレ！ 崇徳健児！

柔道競技優勝報告会

平成17年8月28日(日)

於：広島ガーデンパレス

第54回全国高校総合体育大会

柔道の部73kg級優勝

西岡和志君(3年)



平成17年度全国高等学校総合体育大会柔道の部73kg級において、西岡和志君が決勝で海老泰博君(富山・小杉高校)に朽木倒しで一本勝ちをおさめて全国優勝成し遂げました。

柔道部は、一昨年の花本隆司君(明大)が81kg級で、昨年は宮田雄大君(明大)が66kg級を制し、3年連続の快挙となりました。

柔道男子73kg級西岡(崇徳)制す

重圧はねのけ頂点

柔道男子個人73kg級の頂点に、崇徳学園の西岡和志君が輝いた。決勝で海老泰博君(富山・小杉高校)に朽木倒しで一本勝ちをおさめて全国優勝成し遂げました。西岡君は、一昨年の花本隆司君(明大)が81kg級で、昨年は宮田雄大君(明大)が66kg級を制し、3年連続の快挙となりました。



西岡君は、一昨年の花本隆司君(明大)が81kg級で、昨年は宮田雄大君(明大)が66kg級を制し、3年連続の快挙となりました。

平成17年8月3日 中国新聞より



第54回全国高等学校総合体育大会 柔道競技優勝報告

第54回全国高等学校総合体育大会柔道競技優勝報告会が、8月28日(日)広島ガーデンパレスにて、ご来賓、広島県柔道連盟関係者をはじめ、学園教職員・保護者会・柔道部OB会・同窓会などから多数の出席者のもと盛大に行われた。加美監督より優勝迄の対戦経過が報告され、川口総監督からは「目標はオリンピック」との激励があり会場全体が熱い雰囲気にも包まれた優勝報告会となった。西岡君は小学1年生から柔道をはじめた。中学生時代にも全国大会で3位に、昨年度の高校総体でも3位になるなどその実力は全国的に見ても期待の高い逸材と言えます。今後も西岡君の活躍を応援したいと思います。

同窓会この一年

【平成16年】

- 11月12日 平成十六年度同窓会総会及び懇親会 (於：広島ガーデンパレス)
- ・平成十五年度活動報告
- ・平成十五年度収支決算(案)の承認
- ・平成十六年度収支予算(案)の承認
- 11月26日 正副会長会議(於：崇徳学園本館応接室)
- 【平成17年】
- 1月21日 同窓会名簿改訂について協議 (出席/奥田会長・清水副会長)
- 2月28日 高等学校卒業生表彰式「優秀クラブ及び個人に記念品贈呈」 (於：崇徳学園体育館(出席/奥田会長)
- 3月1日 崇徳高等学校卒業式 (於：崇徳学園体育館)
- 3月19・20日 全国高等学校柔道選手権大会応援 (出席/奥田会長・清水副会長) (於：東京・武道館)
- 4月2日 平成十六年度同窓会懇親会会計監査 (出席/奥田会長・田部事務局)
- 4月7日 崇徳中学校・高等学校入学式 (於：崇徳学園体育館)
- 4月14日 出席/奥田会長・永井・清水副会長 崇徳学園歓迎会 (於：広島ガーデンパレス)
- 4月22日 同窓会名簿改訂について協議 (出席/永井・清水副会長)
- 5月14日 正副会長会議 (於：崇徳学園本館応接室)
- 5月27日 同窓会名簿改訂について協議 (出席/奥田会長・清水副会長)
- 6月21日 正副会長会議(於：崇徳学園本館応接室) 幹事会(於：崇徳学園本館会議室) 同窓会総会懇親会幹事引き継ぎ会 (於：全日空ホテル)
- 6月25日 (出席/奥田会長・中川・永井副会長)
- 6月29日 同窓会名簿改訂について協議 (出席/奥田会長・清水副会長)
- 7月1日 同窓会総会当番幹事との打ち合わせ (於：全日空ホテル)(出席/中川副会長)
- 7月8日 崇徳学園関東支部総会 (於：東京・ホテル機山館)
- 7月29日 同窓会名簿改訂について協議 (出席/奥田会長・田部事務局)
- 8月2・3日 全国高等学校総合体育大会応援(柔道・バレーボール) (於：千葉県成田・東金) (出席/清水副会長)
- 8月3日 正副会長会議(於：崇徳学園本館応接室) 幹事会(於：崇徳学園本館会議室)
- 8月11日 同窓会名簿改訂について協議 (同窓会名簿改訂に伴う個人情報保護法関連の契約書調印)
- 8月22日 出席/奥田会長・清水副会長 同窓会総会当番幹事との打ち合わせ (於：全日空ホテル)(出席/中川副会長)
- 8月28日 柔道部インターハイ優勝報告会 (於：ホテル広島ガーデンパレス) (出席/中川・永井副会長)
- 9月4日 同窓会名簿発行・発送
- 9月16日 同窓会総会当番幹事との打ち合わせ (於：全日空ホテル)(出席/中川副会長)
- 10月3日 正副会長会議(於：崇徳学園本館応接室) 幹事会(於：崇徳学園本館会議室)
- 10月14日 同窓会奨学生採用伝達式 (於：崇徳学園本館理事長室)
- 10月20日 出席/奥田会長・中川副会長・太田監査 同窓会総会当番幹事との打ち合わせ (於：全日空ホテル)(出席/中川副会長)
- 10月31日 正副会長会議(於：崇徳学園本館応接室) 幹事会(於：崇徳学園本館会議室)
- 11月2日 平成十六年度同窓会会計監査





崇徳学園同窓生の皆さんがさまざまな業界や地域で活躍されています。今回も一部をご紹介します。

各社で「地域一番」を目指す

(株)エディオン社長 久保允誉氏(昭和43年生)

「四月から新・エディオンが始動しました。手応えは、ミドリ電化は関西の雄。地元でシェアが高く、サービス重視の理念も共通する。「運命共同体」としてタッグを組み、エディオンの価値も上がっている。」

「より一体的な運営ができる全面統合をしないのはなぜですか。」

「確かに全面統合すれば効率は上がるだろう。だが、各社が積み上げたノウハウと信用を軸に「地域一番店」になれば、圧倒的な強さが手に入る。旗艦店に限って店名を「エディオン」と付けてブランドイメージを高める手法もある。」

「一人勝ち」とまでいわれるヤマダ電機にどう対抗しますか。」

「例えばデオデオなら、四国への集中出店で一気に市場を取りに行く。本店など地元の拠点は都市型の大型店舗にリニューアルし、住関連やホビーも備えた「絶対に勝てる店」にする。シェア、サービス水準が高い中国地方は、ヤマダ電機の店と真つ向勝負しても盛り返せた。どの地域でも広島と同じかそれ以上のサービスを提供し、勝ち残れる店舗を目指す。」

「次は関東展開が狙いですか。」

「二〇〇九年度以降、大型店舗を核に集中出店する。出店姿勢を明確にしてから不動産情報も次々に入り、うすうすするが、今は足元を固める我慢の時期だ。」



「今はまた三合目。圧倒的な強さで勝ち抜く店舗展開をなくす」と語る久保社長

平成17年7月8日 中国新聞より

新人時代



大地 克伸氏
センナリ社長

調味料製造で創業80年になります。幼い頃から酢の入った容器のラベル貼りや塩洗いをよく手伝われたものです。崇徳高校ではラグビー部でプレーし、名門クラブがある明治大学に進もうとしましたが、親から「商売人は大学に行かなくてもええ」と言われて断念。高校を出るとすぐ家業に就きました。最初は西区十日市の営業所に勤務し、朝4時に起き、車を洗ってその日の準備。朝食を済ませて8時から八百屋や酒屋を軒並み回り、わが社の商品が置かれているかどうかをしらみつぶしに聞き歩く。夜7時頃営業所に戻り、本社に行って容器に商品を詰めてから深夜零時、また事務所に帰り、寝るのは毎晩1時頃でした。お店を訪れ

ても「酢はいらん」と口を揃えて言われたりしましたが、会社がつぶれないように販路開拓を頑張りました。そうする中で、わが社独自の水や有機原料を使って美味しさと安全を追求した、3回発酵の手づくり純米酢が見直され、一気に取引が拡大したんです。父の他界後50歳で社長に就任し、約20年。弟の専務とで原料の買い付けに全国を東奔西走しています。酢ブームも加勢して全国の大手百貨店や通販会社から注文が殺到。海外からの注文も1割程度あり、わずか3人の営業マンで対応しているのが現状です。きれいな会社、美味しい調味料を作る、挨拶のできる会社を企業理念に、財産よりも人材を残していくのが私の本旨です。

大地 克伸さん (株)センナリ社長 /昭和30年卒
<平成17年8月11日 広島経済レポートより>

支店長



浜西 泰生氏
MSコミュニケーションズ中国支店長

1997年に住商テレメイト中国営業所に入社。01年7月にMCテレネットと合併しMSコミュニケーションズが誕生。入社以来一貫して営業畑で活躍し、今年2月に社内初のプロパー支店長の一人に抜擢された。7月に同業のカルソニックコミュニケーションズを買収し、携帯電話の年間販売台数で日本一に躍進した。業界は来年から契約会社を変えても同じ電話番号が使えるモバイルナンバーポータビリティ(MNP)の波が到来する。支店ではこれを新たなビジネスチャンスと捉え、得意領域を伸ばすとともにエリア内の課題解決に挑戦する。カルソニックとの合併のシ

ナジー(相恋)効果を最大限に發揮することも課題で、「従業員間の直接対話によるコミュニケーションを大切に全員のパフォーマンスを上げていきたい」。崇徳高校ラグビー部実力派で、東海大体育学部社会体育学科に進学。ラグビーで人に対する態度など全てを教わり、人間をつくって頂いた。休日には趣味のさつき盆栽を手入れも人も手をかけないと伸びない。MNP対策も人づくりが最大のポイントで、仕事もさつきも終わらなき挑戦。来春には業界で中国地区最大の二七〇人体制に。倍条のスピード&アグレッシブの営業に徹する。昭和37年生まれ。安佐南区に妻と子供二人、犬一匹と暮らす。

濱西 泰生さん (株)MSコミュニケーションズ中国支店長 /昭和55年卒
<平成17年9月15日 広島経済レポートより>

呉駅前のにぎわい創出



「R呉駅南側の貨物ヤード跡地の再開発事業で、10月末の完成オープンを目指して一部六階建延二万一千三百四平方メートルの商業棟「レクレ」を建設中。事業主体の大和システム中国支店の広本和彦支店長は、

「買い物人口の流出が顕著な呉市だけに、そここう呉店、昨年開店したゆめタウン呉や、4月23日に開館する大和ミュージアムなども連携して、にぎわいの創出に一役買いたい。」

一階にはフタバ図書、二階にユニクロ、三階に豚カツ、ラーメンなど九店舗の飲食ゾーン、四階に呉市の子育て支援センター、メディアカルフィットネス、五・六階は、ビルインでは中国最大規模の露天風呂もある展望風呂と、ほぼテナントも決まっている。中央部に駐車場棟(三〇四台収容)を配置。隣接で同時完成を目指して建設中の分譲マンション七二戸の住民向け利便施設としても期待され、

「二四時間営業のテナントも配置し、呉市民の憩いの場となれば幸いです」

周辺一〇〇メートルを商圏に、年間一〇〇万人以上の集客を見込んでいる。

広本 和彦さん (株)大和システム中国支店長
平成17年8月11日 広島経済レポートより

